

小学校（第3・4学年）「特別活動」

○授業のねらい

- ・全ての児童が、身の回りの危険を知り、危機意識を高め、不審者や変質者に遭遇したときに適切に行動する態度を養う。

○指導形態（工夫したこと）

- ・警察署生活安全課職員を講師に招き、児童の発達の段階に合わせた動画の視聴や講話を行ったり、児童が自分事として捉え、性被害に遭いそうになったときに自分の生命を守る行動をとることができるよう、ロールプレイを行ったりした。
- ・全ての児童が、実際の動きややり取りを見たり、周りの友だちと話し合ったりできるよう、体育館で実施した。

授業の内容



「授業の様子」

<実際の授業で工夫したこと>

導入

- ・事前に道徳科で学習した、本時に関連する内容項目等を振り返り、本時への見通しをもたせるようにした。

展開

- ・発達の段階に合わせた動画を視聴している際に、外部講師が補足説明を加えることにより、児童に学習内容の理解と、自分事として捉える意識を高めさせるようにした。
- ・不審者や変質者と遭遇したときの適切な行動のとり方についてロールプレイし、相手との距離をどれくらいとれば安全なのかを実感させるようにした。

終末

- ・動画や説明、実演を通して、児童から出された質疑に応答するとともに、学習を振り返る時間を確保することにより、学習内容を定着させるようにした。

<教職員の感想>

- ・不審者と遭ったとき、距離が短ければあっという間に捕まってしまったが、講師の方に教えてもらったとおり、ある程度長い距離があれば逃げることであったので、危ないと思ったときは、長い距離をとるように気を付けたい。
- ・今回の学習で学んだことを教師も把握し、不審者が近付いてきたと思ったら距離をとることを、発達の段階を踏まえて児童に説明したり、徹底させたりしていきたい。

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

- ・外部講師による講話を行ったことで、授業後に児童から、その後の学校生活で安全に気を付けようと声を掛け合う様子が見られるなど、学習内容を踏まえた言動が増えた。

○今後に向けて

- ・発達の段階や児童の実態を踏まえ、継続して授業を実施するとともに、教職員が共通理解を図り、組織的に見守りを行い、児童の安全確保に努める必要がある。